

地域人材ネット

行政がタネを蒔き 民間が花咲かす～身の丈にあった地
域づくり～

山城 定雄 (やましろ さだお)

公益社団法人 沖縄県地域振興協会 プログラムオフィサー



○ 登録者情報

所在地

沖縄県那覇市

略歴

- ・1979～2013年まで東村役場勤務。この間、村の住民参加の地域づくりの原点とも言われる「村民の森つつじ園」の整備や沖縄の春を代表する「東村つつじ祭り」を仕掛ける。また、村の基幹作物の自由化で揺れる中、足元の地域資源の価値を高める「エコツーリズム&グリーンツーリズム」の推進を掲げた村の21世紀ビジョンの策定に関わる。
- ・2013～2018年まで「沖縄県地域づくりネットワーク」副会長として、沖縄県内の地域づくり団体活動を支援。
- ・2019年から公益社団法人 沖縄県地域振興協会プログラムオフィサーとして県内地域づくり団体のハンズオン支援を行っています。
- ・足元の地域資源の付加価値を高める自然体験滞在型観光等の官民協働の取り組みが評価され、2003年「地域づくり総務大臣表彰」、2004年「過疎地域自立活性化優良事例表彰(総務大臣賞)」、2005年「オーライ!ニッポン大賞(審査委員長賞)」の団体表彰や2006年「内閣府沖縄総合事務局 沖縄振興功績者表彰(個人)」など受賞。
- ・「九州・山口地域づくり人材ネット」登録者2016～・沖縄県振興審議会専門委員「離島過疎地域振興部会」2019～

著書・論文等

- 「地域開発～花と水とパインの村の地域戦略～一般財団法人日本地域開発センター」(2015年3月)
- 「沖縄力発掘!本土復帰40周年記念講演集～内閣府沖縄総合事務局」(2013年3月)
- 「沖縄地域産業の未来～交流型農村による産業おこし～新評論」(2012年8月)
- 「ダム技術～花と水とパインの特色ある村づくり～ダム技術センター」(2009年1月)
- 「町村週報～交流型農村を目指して～全国町村会」(2005年4月)
- 「地方財政～地域資源の付加価値を高める地域づくり～地方財務協会」(2004年2月)

○ 行政がタネを蒔き 民間が花咲かす～身の丈にあった地域づくり～

取組の内容

- ・沖縄本島北部の東海岸に位置する東村は人口およそ1500人の過疎の村です、かつては農業以外にこれといった産業も知名度&観光資源もありませんでした。1976年から小学生からお年寄りまで村民総参加にり6年の歳月をかけて5万本のつつじを植えた手作り公園「村民の森つつじ園」を造った。この公園を舞台に「東村つつじ祭り」が行われ、今日では沖縄やんばる地域の春を代表するイベントとなって、村の知名度アップに繋がっています。
- ・1990年に基幹作物であるパインアップルの輸入自由化やバブル崩壊後の農業を取り巻く厳しい状況におかれ、足元の地域資源の付加価値を高める「エコツーリズム&グリーン・ツーリズム」を官民一体で取り組みが展開されています。
- ・自主的・主体的な地域づくりを促進するため、地域づくり団体、市町村、広域市町村圏事務組合及び沖縄県で構成する「沖縄県地域づくり団体協議会」が1994年に設立され、2002年に「沖縄県地域づくりネットワーク」に改称し、2019年に発展的解散するまで副会長として沖縄県内の地域づくり活動を支援してきました。
- ・沖縄県地域づくりネットワークの発展的解散により、2019年に地域づくり業務の一部を継承した「公益社団法人 沖縄県地域振興協会(県及び41市町村が会員)」において、これまでの地域づくり活動のノウハウや人脈ネットワークを生かしてプログラムオフィサーとして助成金等を活用した県内市町村の地域づくり活動や身の丈にあった地域づくりを支援しています。
- ・これまで飛躍的に伸びてきた体験滞在型観光も新型コロナの影響で観光のあり方が問われており、「ピンチをチャンスに変える」新しいカタチの取り組みを模索しています。



地域づくり講演1



地域づくり講演2

実績

・沖縄本島で最も小さな村(人口およそ155人)で開催される「つつじ祭り」には、毎年数万人が花見に訪れ、これまで190万人余が訪れました。祭り開催により村の魅力が広く県内外に知られるようになっていきました。このため住民に誇り・自信に繋がり、行政が仕掛けた住民参加の取り組みは村の地域づくりの原点にもなっています。村では2021.3月に「村民の森開園40周年記念誌」を発刊し、これまでの記録を後生に残し村づくりの礎にすることとしています。・1998年に5万4千人であった観光交流人口は、2018年には35万人余と飛躍的に伸びています。また、修学旅行の受入れも2018年には369校で、農業体験を取り入れた農家民泊もおよそ1万人受入れています。・村がリーディングプロジェクトとして整備した村民の森「つつじエコパーク」も、2002年の開業以来60万人余の宿泊・体験を受入れています。2003年から都市部の子供たちを受入れて、自然体験、農業体験、農家宿泊体験を行う取り組みが広がりを見せ、現在ではおよそ100校を受入れています。・交流型農村の取り組みにより住民にもビジネスチャンスが広がり村民所得も、1996年の1,506千円から2017年には2,59千円とおよそ1.7倍伸びています。しかし、新型コロナで大きな打撃を受けており、身の丈にあった地域づくり・関係人口を増やす取り組みが求められています。

工夫した点や苦労した点

・村民の森つつじ園の整備においては、住民に「出番」を作ることによって「誇り・自信」に繋がるよう仕向けた。
・村の21世紀ビジョンの策定において「交流・自然」をキーワードにした交流型農村の村づくりにおいては、農業を捨てた村の未来はない。と粘り強く住民説明会を行った。地域にとっては当たり前の資源が訪れる人にとっては価値あるものであるとの気づきを得るために、外部の方たちの「外から目線」の評価をフィードバックしました。
・「出る杭は打たれる」「しがらみも」ありましたが、地域づくり仲間とのネットワークで乗り越えてきました。

ひとことPR

私の名刺には「地域が元気になる“タネまき”のお手伝い」と刷り込んでいます。
「ないものねだりでなく、あるものを生かす」「身の丈にあった地域づくり」をモットーに、コロナ禍で厳しい局面のなか、30年余の行政経験と40年余の地域づくり活動の人脈ネットワークを生かして、「地域づくり講演」等を通じて「コロナ禍の今だからこそ」地域が元気になるアドバイスをしたいと思っています。

○ 参考

取組分野の分類

登録者の取組を12の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

1.地域資源を活用した地域経済循環	2.まちなか再生
○ 地場産品発掘・販路開拓	中心市街地活性化
6次産業化	空地・空家・空きビル・空き店舗等対策
経営資源の引継(事業承継等)・起業支援	商店街活性化
地域中核企業等の支援	その他
その他	
3.生活機能の維持	4.環境保全・SDGs
地域医療・福祉	分散型エネルギーシステム
地域交通	地球温暖化対策
集落機能の確保	廃棄物・リサイクル対策
その他	その他
5.防災減災・危機管理	6.観光振興・交流
建築物耐震化・長寿命化	DMOとの連携
地区防災計画	インバウンド対応
BCP	○ 民泊・農泊
避難所運営	地域おこし協力隊の推進
感染症対策	その他
その他	
7.関係人口の創出・拡大	8.移住・定住促進
滞在・活動の場づくり	起業・事業承継等支援
地域おこし協力隊の推進	空地・空家対策
○ 地域と関係人口の協働	地域おこし協力隊の推進
その他	その他
9.少子化対策、子ども・子育て支援	10.地域づくり人材の育成・教育
結婚・出産・子育て支援	○ 人材研修
働き方改革	ふるさと教育
子どもの貧困対策	地域と教育機関の連携(高校魅力化・域学連携等)
その他	その他
11.自治体経営イノベーション	12.シティプロモーション・地域PR
財政マネジメント(公共施設管理・公会計整備)	地域ブランディング
官民連携(PPP・PFI)	メディア活用策
自治体間連携	効果の把握・評価
○ 住民参加	その他
その他	

関連ホームページ

公益社団法人沖縄県地域振興協会	oflp.jp
沖縄県地域づくり紹介サイト	wao41.jp

連絡先

メールアドレス	s.yama.758133〔アットマーク〕gmail.com		
---------	--------------------------------	--	--

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。